

JAMD2025 プレカンファレンスレポート

プレカンファレンスは、本学会が始まる前日の4月18日（金）、昼間の徳島観光と夜の食事を兼ねたカンファレンスの二部構成で開催された。

徳島駅を出発した一行は、まず大塚国際美術館を訪れた。世界中の名画が原寸大で陶板に再現されており、その迫力は本物さながら圧巻だった。

特に「最後の晩餐」を見た時、現地で本物を見た時の記憶がよみがえり、とても感動した。館内は非常に広く、じっくり鑑賞すれば半日以上かかるが、適度な休憩スペースも設けられており、快適に鑑賞できる。

美術に詳しくない人でも楽しめる工夫が随所に施されており、まるでヨーロッパを旅したような気分を味わえた。

芸術を堪能した後は、リゾートホテル「アオアヲナルトリゾート」の個室で天然鳴門鯛懷石を味わった。

その後、待望のうず潮観潮クルーズへ。うず潮が激しく巻く時間帯に乗船でき、ダイナミックな自然現象を間近で体験することができた。

天候にも恵まれ、瀬戸内海と紀伊水道（太平洋側）の潮流が交差する神秘的な瞬間に、深い感動を覚えた。

その後、創業1804年、徳島県最古の酒蔵として220年以上にわたり酒造りを続けている本家松浦酒造場を訪れ、歴史と伝統が息づく酒蔵見学を体験した。

この蔵元では、江戸時代から受け継がれる酒特に印象的だったのは、伝統的な製法を守りながらも品質向上のための技術革新に積極的に取り組んでいる点である。

海外にも多くの日本酒を出荷しており、高い評価を得ている。試飲では、代表銘柄「鳴門鯛」をはじめ、すだち酒やリキュールなど、多彩なラインナップを楽しんだ。

午後6時からJRホテルクレメント徳島で行われたカンファレンスでは、辻本恭久先生監修「マイクロスコープ動画88本で学ぶ！精密補綴処置 支台歯形成、圧排、印象採得から、プロビジョナルレストレーションの調整、患者説明まで」の著者である小林平先生、佐久間利喜先生、菅原佳広先生、三橋純先生といったエキスパート4名が一堂に会し、食事を交えながら、著書の内容に沿った講演が行われた。

ミラーテクニックを中心とする三橋先生と菅原先生、直視を中心とする小林先生と佐久間先生による、豊富な臨床経験に基づく個性あふれる講演が続いた。

学会でもよく話題となるように、ミラーテクニックと直視のどちらが優れているということではなく、術者のバックグラウンドやスキル、症例に応じた選択が重要である。

ただし、ミラーテクニックはマスターしておくさまざまな場面で大いに役立つ。

知識と技術を学び、臨床経験を積み重ねながら、自分のスタイルを築いていくことの重要性を改めて実感した。

今回のプレカンファレンスは、観光20名、カンファレンス96名と、多くの参加者で大変盛り上がった。本学会が始まる前日に行われるプレカンファレンスに参加することで、顕微鏡治療をより深く学びたいという共通の目標を持った方々との出会いがあり、楽しく充実した時間を共に過ごすことができる。

また、翌日から始まる学会への意欲をさらに高めるきっかけにもなるため、今後もプレカンへの参加を強くおすすめしたい。

うめむら歯科医院
梅村匠

